

**令和2年度
芦屋市文化推進基本計画評価報告書**

芦 屋 市



1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

【総括】

従来の事業を強化してきた一方で、事業内容を変更し、新たに本市にゆかりのある方の講演・公演等を行い、また、参加者数を増やすために試行錯誤しながら新規イベントを実施した。

文化財保護活用事業では、「精道村 130 年記念事業」を実施し、芦屋市の前身である精道村について、資料収集や聞き取り調査など調査・研究を行い、収集した古写真等をデジタル化、代表的なものをカラー化し、その成果を冊子や SNS などで市民に広く発信した。

事業自体の課題としては、いま行われている事業内容のレベルを維持しつつ、事業ごとに参加者数、年齢層等に偏りがあるので、事業内容のさらなるブラッシュアップをして、参加者数を増やせるように、あるいは、幅広い世代の方の参加となるように、効果的な周知の方法などを検討していく必要がある。また、助成及び顕彰事業関係の課題としては、多様な活動を活性化させ、新たな世代の掘り起こしを促進するための方法を検討する必要がある。さらに、今後様々な事業を行う上で、新たな生活様式を踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、事業を継続する方法を模索する必要がある。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 誰もが文化を身近に楽しめる仕組みづくり

・事業 No.3 ふれ愛シネサロン

<取組成果>

新型コロナウイルス感染症により昨年度に比べ参加者が減少したものの、託児の充実化、子供向けの映画を上映した影響もあり、若い世代の参加者も増加した。アンケート結果においても約 96%の方が参加してよかったと回答しており、誰もが文化を身近に楽しめるきっかけをつくることができた。

<課題>

啓発映画会の内容によって参加者に差がでるため、継続して誰もが楽しめるものにしていく必要がある。

・事業 No.8 保健福祉フェア

<取組成果>

芦屋市保健福祉センター内の事業、芦屋市の保健・福祉の取組の周知を目的として、あしや保健福祉フェア（毎年 1 回）を開催している。令和元年度は延べ 9,175 人の参加者があり、地域の活動や健康増進、障がい福祉や高齢者福祉に関する企画等を通じて「保健・福祉」への理解を深める場となっている。

・事業 No.12 富田碎花顕彰事業～・事業 No.15 美術博物館管理運営事業

<取組成果>

美術博物館・谷崎潤一郎記念館・富田碎花旧居・三条文化財整理事務所において、市民に文化芸術に触れことができるよう年間を通して展覧会や講座・講演会・ワークショップ等を実施した。それらの中で、美術博物館では展覧会以外に、全世代が文化芸術に親しみを持てるよう様々な出店者を募集し、「あしやつくるば」（屋外イベント）や「まなびはく」（室内での講演）などのイベントやワー

1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

クショップで文化芸術に触れる機会を創出した。谷崎潤一郎記念館では、講演会を開催し、谷崎文学の理解を深める機会を提供することができた。

・事業 No.16 ルナホール事業

<取組成果>

ルナ・ホール事業として、本市で育った作曲家・貴志康一がベルリンで自作初演した交響曲『仏陀』の演奏会（参加者 531 人）を実施した。また、香川京子さんを招き、谷崎潤一郎の映画作品に出演した当時の撮影状況などを語っていただくイベント（参加者 340 人）や、小川洋子さんを招いて芦屋を舞台にした文学作品の魅力を伝える事業（参加者 578 人）などを実施した。

(2) 文化活動を通じた地域のつながりづくり

・事業 No.28 文化財保護及び啓発事業（ボランティアの養成）

<取組成果>

文化財保護活用事業では、「精道村 130 年記念事業」を実施した。同事業では、芦屋市の前身である精道村について、資料収集や聞き取り調査など調査・研究を行い、収集した古写真等をデジタル化、代表的なものをカラー化し、その成果を冊子や SNS などで市民に広く発信した。冊子『精道村のあゆみー郊外住宅地・芦屋の幕開けー』は新聞各紙及びインターネット版にも取り上げられ、全国から入手したいとの要望があり、本市のシティプロモーションにおいて大きく貢献できたと考える。

<課題>

歴史資料等の適切な保存と継承、文化財ボランティア活動の活性化が必要である。

・事業 No.30 講座・セミナー・公民館 音楽会等の開催

<取組成果>

「世界をよみとく暦の不思議」講座や写真家の方を講師に招いた「北米ノースウッズを旅して」講座や「裂ける大地と人類誕生・地球史」講座など、公民館講座として新たな講座を実施した。

(3) ユニバーサル社会づくりを目指した生涯学習活動の振興

・事業 No.38 エントランスコンサート

<取組成果>

保健福祉センターが市民の集いの場となるよう月 1 回開催している、エントランスコンサートでは、“みんなで歌いましょう” や手話歌レッスンなどの、来場者も参加して楽しめるコンサートを開催した。

<課題>

エントランスコンサートでは、多くの方に参加いただいているが、高齢者の方の参加が多く、若年層が少ない印象であるので、幅広い世代の方の参加となるよう、企画の検討や、開催の周知を呼びかけていく必要がある。

(4) 文化ゾーンの活性化、各種施設の有効活用

・事業 No.53 老人福祉会館の運営 ～事業 No.54 ゆうゆう倶楽部

1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

<取組成果>

継続して高齢者のイベントを実施するとともに、高齢者の活動場所支援を行った。

<課題>

老人福祉会館やゆうゆう倶楽部について引き続き周知活動を行っているが、近年利用者が減少しているため、高齢者への周知方法の検討が今後の課題である。

・事業 No.63 文化ゾーン連携事業 (niwa-doku, 講座の開催)

<取組成果>

読書イベント「niwa-doku」や、美術博物館で開催した「親子で楽しむクラシックコンサート」(事業 No.139 記載)では図書館職員が他課と連携して、会場運営や絵本の読み聞かせ等を行った。

「niwa-doku」については、子どもから高齢者まで読書に親しむイベントとして認知されてきており、芦屋市文化ゾーンの活性化に大きな役割を果たしていると考ええる。

<課題>

定例事業として継続していくためには、職員、指定管理者、ボランティアが協働し、イベントメニューのブラッシュアップを図っていく必要がある。

(5) 文化芸術を行う団体への支援

・事業 No.65 芦屋市文化芸術文化活動助成及び顕彰

<取組成果>

市民及び市内において芸術文化活動を行っている個人または団体に対して、一定基準以上の大会に参加する場合、個人・団体ごとに参加費を補助するものであり、芸術文化活動の促進に寄与している。また、優れた成績を残した方々(芦屋市民及び芦屋市に関係のある個人または団体)に対して表彰することにより、芦屋市とのつながりを創出に寄与している。

<課題>

新たな世代の掘り起こしができていないので、掘り起しの方法を検討する必要がある。

・事業 No.69 市民提案型事業補助金

<取組成果>

市民の創意工夫に基づき市民活動の提案に対して、上限を設けて経費を補助するもの。新たに活動を始めたい人や団体の取組を支援に寄与できた。

<課題>

多様な市民活動の掘り起こしと活動の活性化を図る必要がある。

(6) 文化に関する情報発信の強化

・事業 No.78 阪神間連携ブランド発信事業

<取組成果>

「阪神 KAN お散歩マップ」を2種作成した。第1弾は建築を、第2弾はスイーツ・パンを題材とした。マップごとにテーマを絞ることで、違った層へのアプローチとなると同時に、シリーズ化するこ

1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

とで情報発信の効果が高まったと考える（※音楽とスイーツを用いたイベントを開催予定だったが、中止となった。）。

<課題>

マップやイベント内容について好評をいただいているが、阪神間モダニズムの認知度の向上や、市への来訪者数の増加に繋がっているか成果が把握しづらい。

2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進

2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進

【総括】

主に子どもたちに楽しんでもらえるように美術博物館・谷崎潤一郎記念館・三条文化財整理事務所等の文化施設において、展覧会・こども講座等様々な事業を行ったほか、ワークショップ・ヨドコウ迎賓館の幾何学模様の体験プログラム等芦屋の特色を活かした文化体験をできるように実施した。また、来庁が必要な児童センターにおいてはコミュニティ機能を果たしているほか、より身近な子育てサポートブック・アプリ等手軽に利用できるもので子育て世帯へ情報発信を行った。

上記取組を行うための課題としては、子どもを対象とした事業は、分野が多岐にわたるため、連携を迅速に図りながら、情報発信に努める必要がある。また、パソコン等の機器の整備だけでなく、地域協働の仕組み作りも必要である。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 豊かな情操を育む体験活動の推進

・事業 No.87 読書活動推進事業

<取組成果>

各学校図書館の利用促進に関する取組を通して芦屋市立小中学校の学校図書館の貸出し冊数及び児童生徒一人当たりの貸出し冊数も増加した。小学校におけるスタンプラリー達成者の人数も毎年更新している。小学校図書館において就学前施設の幼児が体験できる取組が全校に広がりつつある。

・事業 No.88 文化財保護及び啓発事業（こどもや親子対象事業）～・事業 No.89 美術博物館管理運営事業（こどもや親子対象事業）

<取組成果>

美術博物館では、夏季休暇期間に「親子で訪れ楽しめる」ことをコンセプトとした展覧会を開催した。また、谷崎潤一郎記念館では、夏休みこども講座を開催し、親子を対象として文学館へ訪れる機会創出ができた。三条文化財整理事務所では展示やワークショップ（月若遺跡出土小銅鐸鑄造体験や拓本しおり作りなど）を実施し、市内小学校へチラシで周知した。夏休みには小学生らが訪れ、芦屋の歴史や文化財を学ぶ姿が見られた。

(2) 地域社会とのつながりによる文化体験

・事業 No.92 児童健全育成事業（親子・保護者の交流）

<取組成果>

「児童センター」実施の保護者と児童参加型の事業は、子育て世代の相談や連帯の場として、育児の悩み等の解消を図れるコミュニティとして機能した。

<課題>

リモートによる事業実施のためのパソコン等の機器の整備が必要である。

・事業 No.95 味覚の1週間

<取組成果>

学校における様々な食育活動を通して食べることの楽しさや食材のおいしさを伝えている。「味覚の

2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進

授業」では、市内有名シェフを講師に味わうことの楽しみに触れる体験型学習を行う等、食への正しい理解と高い関心を育むことができた。

<課題>

授業時間の関係もあり、食育を実施するための時間に限りがある。

・事業 No.96 あしやキッズスクエア

<取組成果>

県教育委員会「地域連携スキルアッププログラム」の指定を受け、キッズスクエア山手において、学芸員による会下山文化体験・小学校教員によるヨドコウ迎賓館の幾何学模様の体験プログラムなど、多様な地域人材による芦屋の文化財を活用したプログラムを実施した。県社会教育課・社会教育委員の視察も受け、県教育委員会令和2年度「指導の重点」23地域の教育力の活用ページにコラム掲載されるなど、芦屋の特色を生かした文化体験を実施し、県教委主催の全県研修会においても高い評価を得た。

<課題>

上記のようなプログラム・協働の形を模索し、地域主体で協働できる地域に応じたシステム構築が課題である。

(3) 親子に向けた積極的な情報発信

・事業 No.98 子育て情報の発信

<取組成果>

子育てサポートブック「わくわく子育て」の改訂版を発行して市内の各公共施設や事業について紹介し、子育て世帯へ情報発信を行った。また、保護者向けの情報発信手段として有効である子育てアプリを積極的に活用し、親子向けのイベント情報やお知らせを周知できた。さらに、発信時には配信を知らせるプッシュ通知設定を必ず行い、より多くの登録者に情報が行きわたるよう工夫した。

<課題>

親子向けのイベントやお知らせに関する情報発信の機会を増やすため、引き続き他部署と連携を図りながら、全庁的に広く記事を募集し、イベントや子どもの居場所について積極的に周知を行い、情報発信に努める必要がある。

3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり

3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり

【総括】

図書貸出では、図書館本館と各施設間が連携することで、読書のまちとしての利便性向上が図れている。また、図書館関連施設において、子ども向けだけでなく、大人向けのイベントを行うことにより、様々な世代で読書に対して興味を持ち、理解を深めてもらう場を提供した。そして、芦屋に特化した事業として、従来の「芦屋オープンガーデン」を行っただけでなく、新たに、「都市景観賞」を新設し、景観に対する意識の高揚を図ったほか、「芦屋の未来を考える町歩き写真ワークショップ」を開催し、芦屋の街に対して興味を持ち、理解を深めてもらう場を提供した。

新型コロナウイルス感染症対策での課題については、図書貸出関連施設自体の消毒だけでなく、書籍を損なわないような有効な消毒方法を検討する必要がある。また、芦屋に特化した事業では、参加者の高齢化が見受けられるので、ターゲットの拡充あるいは別事業との連携を図る等の方法を検討する必要がある。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 暮らしに根ざした文化交流のまちづくり

・事業 No.104 姉妹都市交流事業

<取組成果>

姉妹都市学生親善使節の相互派遣事業により両市 2 名ずつの学生が相互に訪問を行い、学校訪問などを行い学生同士での意見交換などで交流を深め、お互いの市や文化を知る機会を作ることができた。潮芦屋交流センターでのセミナー・講演会・料理教室では様々な国の文化や自国の文化を学ぶことで市民が多様性の理解を促進することができた。こども園、中学校で多文化共生理解のための催しや講座を開催し、直接外国の方と触れ合うことで、インターネットや書物からは得られない新しい文化について理解を深めることができた。

<課題>

より多くの世代の市民の方々に多文化共生についての理解を深めていただけるよう機会創出を続ける必要がある。

(2) 芦屋らしい良好な住まい・景観づくり

・事業 No.114 庭園都市推進事業

<取組成果>

芦屋オープンガーデンとして、花と緑いっぱいのもちづくりに向けた市民との協同を目的とし、花と緑のまちづくりの推進のため個人宅、マンション敷地、学校園、公園で活躍されている個人・団体から参加を募り、庭や花壇を公開するイベントを行った。平成 31 年度事業費は 1,398 千円。実施期間は平成 31 年 4 月 20 日から 24 日と、平成 31 年 5 月 8 日から 12 日。成果指標として、参加者数（オープンガーデン箇所数）は平成 30 年度が 133 箇所、平成 31 年度が 140 箇所。前年度より増加しており、ある程度達成できている。

<課題>

公共施設、個人参加者の定着及び促進の必要がある。また、団体参加者についても高齢化などにより活動が続けられない団体もあり、課題となっている。今後市民意識の向上を促す取組が必要となっ

3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり

てくると思われる。

・事業 No.115 景観形成推進事業

<取組成果>

表彰制度として創設した「都市景観賞」の募集・選定により、市民・事業者等の景観に対する意識の高揚に寄与することができた。

<課題>

今後、定期的開催する予定であるが、効果的な周知を図るとともに、賞への関心が高まるよう取り組んでいく。

(3) 読書のまちづくりの推進

・事業 No.117 図書活動支援事業

<取組成果>

上宮川文化センターにおける図書の貸出機能については、図書館との連携により、地域に利便性をもたらしめている。所蔵図書については、併設する児童センターとともに児童向け図書を中心として、子育て世代への支援策として、機能している。

<課題>

新型コロナウイルス感染症による図書の有効な消毒方法について検討する必要がある。

・事業 No.123 図書館本館こどもおはなしの会 ～ No.128 図書館ガイドツアー

<取組成果>

読書のまちづくりの推進事業では、児童対象の絵本の読み聞かせ、おはなし会、読書案内等のイベントのほか、大人を対象とした新規事業として「図書館ガイドツアー」を開催した。読書に対して興味を持ち、理解を深めてもらう場を提供できたと考える。

<課題>

イベント開催に関しては、新型コロナウイルスの影響で、従来のスタイルでの実施が困難になったことから、感染防止対策を踏まえた対応・工夫が今後の課題である。

(4) 文化を通じたまちの魅力の一体的な発信

・事業 No.138 芦屋の未来を考える町歩き写真ワークショップ

<取組成果>

大人を対象とした新規事業として「芦屋の未来を考える町歩き写真ワークショップ」を開催した。芦屋の街に対して興味を持ち、理解を深めてもらう場を提供できたと考える。

<課題>

イベント開催に関しては、新型コロナウイルスの影響で、従来のスタイルでの実施が困難になったことから、感染防止対策を踏まえた対応・工夫が今後の課題である。

3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり

・事業 No.139 シティプロモーション事業

<取組成果>

シティプロモーション事業として、「親子で楽しむクラシックコンサート」を開催し、自由参加方式で625名の参加者があった（平成30年度は、応募形式563名）。参加方式を変更し、さらに、演奏回数を増やしたことに伴い、参加者が増加した。参加者のアンケートもおおむね好評であったということで、音楽文化を通じた本市の魅力向上に寄与した。

<課題>

シティプロモーション事業においては、イベント等、市内で実施されている事業の総合的な情報の発信が課題である。

指標	対象課	単位	平成27年 時点	現状値 (R1実績)	めざす値
① 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進					
この1年間における文化体験・活動の有無	政策推進課	%	59.5	89.6	70.0
芦屋の伝統や文化に関する講演会などの参加者数	生涯学習課 市民センター	人／年	330	618	390
社会教育活動を通じて学んだ市民が講師や指導者となった公民館講座及び市民版出前講座の実施回数	生涯学習課	回／年	3	10	18
文化財の整理作業補助などに関わる「文化財ボランティア」の活動者数	生涯学習課	人／年	15	14	29
「広報あしや」の市民の満足度	政策推進課	%	58.1	65.2	70.0
市ホームページの市民の満足度	政策推進課	%	49.5	46.5	60.0
② 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進					
あしやキッズスクエアでのプログラム実施回数	青少年育成課	回／年	-	784	920
中学生以下の美術博物館入館者数	生涯学習課	人／年	1,260	1,742	3,348
③ 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり					
NPOなどの団体と協働して開催した国際理解を深めるための講座の参加者数	広報国際交流課	人／年	-	462	50
地域におけるまちなみなどの景観の美しさに関して「かなり良い」又は「やや良い」と回答した市民の割合	政策推進課	%	84.7	91.3	90.0
市民が1か月に1冊以上読書する割合	図書館	%	55.0	-	67.8
公立図書館における児童(7～15歳)の図書貸出冊数	図書館	冊／年	73,150	54,839	77,539
「定住意向」に対して、「今の場所に住み続けたい」「市内の他の場所で住み続けたい」と回答した割合	政策推進課	%	84.6	84.3	90.0
「居住地として芦屋市を選んだ理由」に対して、「地域イメージが良い」と回答した割合	政策推進課	%	42.0	43.8	46.0